

緊急事態管理に関する国際会議に参加して

内閣府政策統括官（防災担当）付
参事官（災害予防担当）付 参事官補佐

伊藤 昌弘

「国際消防防災事情」連載にあたって

内閣府大臣官房審議官（防災担当）

（元総務省消防庁総務課長）

長谷川 彰一

国民の生命・身体・財産を火災や災害から守ることは万国共通の目的である。その一環として、内閣府（防災担当）や消防庁、その他防災関係機関では、海外との様々な事業（海外事情の調査、国際会議への出席、海外関係者の招聘等）を実施しているが、それらの成果は必ずしも目に見える形で蓄積されていないのが実情であろう。

このたび、「近代消防」誌に国際消防防災事情に関する連載を始め、関係者へ情報提供するとともに、開かれた記録に留めることとしたい。消防防災関係者の識見を高め、今後の施策の充実に有益なものとなることを期待するものである。

1 はじめに

去る2010年6月18日、19日の両日、北京市にある中国国家行政学院の主催により「緊急事態管理（Emergency Management）に関する国際会議」が開催されました。主催者からの要請を受け、開会式における基調講演を行うこととなった内閣府（防災担当）の中島義勝参事官（総括担当）の随員として、私は同会議に参加する機会をいただきましたので、会議の概要などをここに紹介させていただきますと思います。

2 会議の概要

会議会場となった中国の国家行政学院は北京市の北西部にあり、環状道路では三環路と四環路の間に位置し、学院の広大な敷地に加え、周辺にも北京外語大を始めとした教育機関が多く、比較的閑静な地域です。同学院は、1994年、中国の国家行政幹部の育成・研修機関として設立され、

主に地方政府の上級幹部への教育を実施しています。

今回の国際会議は「緊急事態管理」をテーマとする国家行政学院としては初めての試みであり、同学院の他、中央政府の公安部、民政部、衛生部、国家安全生产监督管理局が共同主催者となり、会議の冒頭、馬凱国务委员（国务院秘书长）（注：日本の官房長官に相当、国家行政学院の院長を兼務）が挨拶を行うという力の入れようでした。また、会議期間中、外国からの参加者全てに食事・宿舎が無償で提供されました。

また、この会議においては、ドイツ技術協会（GTZ）（注：ドイツ連邦政府の出資会社で、日本のJICAに相当）がスポンサーとして共催者となり、海外からの招聘研究者の渡航費用を全額負担したほか、在中国ドイツ大使やドイツ本国から連邦内務省副大臣や局長級も参加するなどドイツ側参加者は約30名のほり、参加者の面でも大きな存在感を見せ付けていました。



中国国家行政学院



開会式の模様

表1 5つの分科会のテーマ

グループA

人間本位の調和の取れた開発：世界的なリスクを抱える社会における政府の緊急事態管理の傾向
 (People-Oriented and Harmonious Development: Trends of Government Emergency Management in Global Risk Society)

グループB

自然災害と公衆衛生の緊急事態管理：調和が取れ、各方面を満足させる人間社会、自然環境及び生態圏の開発
 (Natural Disaster and Public Health Emergency Management: Harmonious and All-win Development of Human Society, Natural Environment and Ecosystem)

グループC

事故、災害、公安：人間社会の調和の取れた開発
 (Accidents, Disasters and Public Security: Harmonious Development of Human Society)

グループD

知識社会における緊急事態管理：学際的なシステムの統合と応用
 (Emergency Management in Knowledge Society: Integration and Application of Multidisciplinary System)

グループE

市場経済における緊急事態管理：企業の責任と大惨事への緊急事態対処
 (Emergency Management in Market Economy: Responsibility of Enterprises and Emergency Response to Catastrophe)

3 会議の構成

会議の参加者は、主催者側招待による外国政府・機関の関係者（日独のほか、EU、英国、米国、韓国、インドネシア等）と外国人研究者、中国政府関係者、地方政府幹部からなり、会議全体で約400名の参加者となりました。

まず初日の午前中、全体会において、開会挨拶に引き続き、日独の代表や中国中央政府の副大臣による基調講演が行われました。

ついで午後には、表1のようなテーマの5つの分科会が同時に開催され、それぞれの分科会においてテーマに沿った研究者等の発表と質疑・討論が集中的に行われました。

日本からの参加者については、中島参事官が開会式において日本政府を代表して挨拶と日本の防災対策全般についての発表を行いました。また、研究者として招待を受けた財建設経済研究所の丸谷研究理事が、分科会のグループAにおいて「日本の事業継続マネジメント（BCM）」を内容とする発表を行いました。

2日目は、再度全体会において、初日の各分科会の報告と、中国側参加者からの発表が続き、会議は閉会となりました。中国側の発表としては、中央からは防災を中心とする緊急事態の関連分野（公安、公衆衛生など）の対応状況の報告、地方政府からは先進的な取組・優良事例についての報告が中心でした。



基調講演を行う中島義勝参事官

4 中島義勝参事官による基調講演 「日本の防災対策」

以下では、内閣府の中島義勝参事官からの発表内容の概略について簡単にご紹介します。

講演の冒頭、4月半ばに中国青海省で起こった地震による被害者（約2,000名の死者）へのお悔やみを述べた後、日本の防災対策について、特に大規模地震発生時の各種対策を中心に説明を行いました。

まず、日本がこれまでに数多くの自然災害に見舞われて被害を受けてきたこと、その中で防災に関する制度・体制、インフラ、気象予報、情報伝達など、防災対策の充実に努めてきたことを述べました。

ついで、日本の防災対策の大きな転機として、阪神・淡路大震災を挙げ、そこからの大きな教訓として、まず、①初動対応に係る政府の対応の改善、具体的には大規模災害発災時における緊急参集体制や迅速な政府調査団の派遣、迅速な応急対応を支援するために内閣府で整備してきた地震防災情報システム（DIS）の概要等について説明しました。ついで、②耐震化の重要性について触れ、学校、病院、住宅などの区分ごとに耐震化率の目標を掲げて耐震化を推進する取組みについて紹介しました。

ついで、日本において今後発生が想定されている大規模地震の数々と（東海、東南海・南海、首都直下など）、それらに対して、被害想定→大綱→戦略→活動要領といった、体系的な対策立案のあり方について紹介しました。

また、日本の進んだ観測技術・情報伝達技術を活用した取組みとして、緊急地震速報の仕組みと被害軽減のための取組みについて紹介しました。

それから、日本でも首都圏河川の氾濫時を想定した検討が進んでいる大規模水害対策について、避難、孤立者対策、被害軽減策など、現在検討中の課題について紹介しました。

最後に、日本の国際防災協力について言及しました。特

に中国との関係では、2008年の四川大地震の際の国際緊急援助隊の派遣や、復興に向けた「日中復旧・復興支援セミナー」の中国との共催、「阪神・淡路震災復興計画」等の関連資料の提供などの事例を改めて紹介するとともに、昨年10月に開催された日中韓防災担当閣僚級会合の成果を踏まえ、今後の両国の防災協力の発展に向けた期待を表明し、発表を結びました。

この発表に対しては、当方で用意した英文資料の他に、中国側で中国語の資料を作成・配布していただきました。こうした主催者側の協力により、中国側聴衆の理解も助けられたと思われます。実際に会議の合間には、中国政府関係者より説明内容についてさらに詳細な情報提供を求められる場面もありました。

5 おわりに

今回、中国主催の国際会議に参加して感じたことは、まず、近年の2度の大地震（2008年の四川大地震、2010年の青海省地震）を契機に、中国政府は相当真剣に防災に関する取組みを強化していると思われる点です。主催者の国家行政学院の研究者の話では、同学院は地方政府幹部の防災教育のため学院内部に専門センターを創設し、既に教授を含む十数名の教育スタッフを揃えているとのことであり、



会場風景（分科会）

今回の国際会議もそうした防災教育充実の一環と考えられます。

また、今回ドイツが会議のスポンサーとなり、参加者の面でもハイレベルの参加により大きな存在感を示したことは、非常に印象的でした。会議の中で、ドイツは四川大地震の際の救援協力などにおいて中国との防災の関係を持ったことが報告されており、そうした関係も一つの契機と思われますが、中国からは日本との間で同様の取組みを行うことへの期待も感じられ、これからの日本の防災協力のあり方を考える上でも、一つの参考になる会議でありました。

テイセン救助機器

テイセン

最強のレスキューツール ストリームラインテクノロジー

油圧機器の接続に
ストリームラインカップリング

- ◆2本のホースを1つのカップリングで接続します。
- ◆差込んで回転させるだけ、簡単、スピーディ、確実です。
- ◆油が流れている状態でも脱着できるカップリングです。
- ◆常に高圧部のホースを目視できるため安全です。
- ◆今お使いの機器にも取り付けが可能、追加でホースを購入する必要はありません。

開口、引き裂き、引張りに
ルーカスプレッター SP310
切断に
ルーカスカッター S511
押上に
ルーカスラムシリンダー
動力は
ルーカスエンジンユニット

帝国繊維株式会社

本社 / 東京都中央区日本橋2丁目5番13号
TEL : 03-3281-3033 FAX : 03-3274-6397
大阪支店 / 大阪市淀川区野中北2丁目2番6号
TEL : 06-6396-0530 FAX : 06-6396-0464